



馬 耳 東 風

今年の4月、三度目の正直で屋久島の宮之浦岳（1,936m）に登頂した。一度目は、一昨年の11月17～19日登山ツアーに参加して挑戦した。登山日は18日で、日帰り登山である。ひと月に35日も雨が降るといわれる屋久島であるので、もとより雨を覚悟していたが、朝4時の出発時は曇り。降らないでくれとの願いもむなしく、登山口までのバスの中で雨が降ってきた。カッパを着て登山を開始するも、雨は霰になり、高度が増すにつれて雪に変わった。ガイドさんは高盤岳展望台（登山口から1時間40分の所）まで行き引き返すという判断であった。この日は風も強く、鹿児島港からの高速船も運休し、鳥取の大山でも雪が積もったとのこと。このような天候では登山中止も仕方がなかったと思いながらも、翌日が快晴となり、実に運の悪い登山であった。

帰宅後、今度はツアーでなく個人で入梅前の4月に行こうと思い、インターネットでガイドさんを予約した。土地勘も少しついたので、登山口に近いホテルを予約する等5カ月前から準備した。4月8日鹿児島空港から屋久島への飛行機が天候調査中で飛ぶか否かは不明とのこと。10分前に出発する種子島行は欠航となったが、屋久島行はなんとか出発できた。飛行機便のトラブルでなんか嫌な予感がした。登山する9日は快晴の予報であった。ところが、8日の夕方ガイドさんから自分が発熱し、コロナウイルス感染症の場合は案内できないので中止にさせて欲しいとの連絡がきた。代わりのガイドさんもおらず、登山口までのタクシーも予約でいっぱいとのこと。宮之浦岳の登山を断念して、9日は快晴の中、縄文杉に会いに

行った。翌日飛行場に行くと、機体整備のため予約していた飛行機が欠航となり、急遽宮之浦港からの高速艇に変え帰宅した。二度日もトラブル続きの屋久島行であった。

自分の体調も万全で、天候にも恵まれながら、またまた宮之浦岳に登れなかった悔しさから、どうしても登頂するぞとの気持ちが高ぶった。宮之浦岳の天気予報を見ると、翌週の17日が晴の予報であった。早速先のガイドさんに連絡するも予定が入っているとのこと。屋久島観光協会を紹介された。観光協会には60名ほどのガイドさんが登録されており、一斉メールを出しますから決まったら連絡するとのこと。14日の夜になってガイドさんが見つかったとの連絡を受け、次にホテルを予約するが、どこも満員。15日に再度観光協会に電話して民宿の斡旋を依頼し、なんとか素泊まりの民宿を確保することができた。16日は三度目の屋久島行でスムーズに民宿にたどり着けた。17日ガイドさん（M）に民宿まで迎えに来てもらい登山口へ。Mさんいわく「こんな良い天気は滅多にありませんよ」とのこと。勇んで登山開始。一昨年11月に撤退した高盤岳展望台も過ぎ、快調に登り5時間で頂上に立つことができた。Mさんからは花之江河でのアーモンドと屋久島の天然塩、頂上での味噌汁、淀川小屋で沸かしてもらったコーヒーは疲れた体にしみわたり最高であった。この淀川小屋で出会ったスイス人女性の登山客が脱水症状になっているとMさんが判断し、ホテルまで送ってあげることにした。Mさんは若い頃ネパールで現地の人に親切にしてくれたので、困った人は助けるよう心掛けているとのこと。三度目の正直で素晴らしいガイドMさんに導かれて登頂した宮之浦岳は感慨深い登山であった。（平）